

平成26年度
事業計画(案)

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

公益社団法人京都染織文化協会

はじめに

京都染織文化協会では公益社団法人へ移行後、日本の染織文化と染織技術の啓発と継承を目的に一般社会へ向けて様々な事業を行っております。特に会員及び一般の方々を対象とした年間2回開催しております染織文化セミナーは、平成24年度より『日本の衣服—技術と風俗を語る—』と題し、上古時代を皮切りに時代を重ねて学ぶことで衣服の変遷を知るシリーズ化した内容となっておりますが、特に一般の方々には毎回定員を上回る申し込みをいただき大変好評を得ております。当セミナーでは日本の服飾文化を確立させた染織技術の歴史を振り返ることで、常に時代に影響されながらも発展を遂げた染織業の底力に改めて畏敬の念を抱くとともに、次代に繋ぐ必要性を切に感じておる次第です。

染織技術の継承は染織産業そのものの発展に深く関係しており、発展なくしては継承の意味がありません。近年染織業に携わる職人の高齢化と後継者不在による廃業により技術の継承が途絶えてしまうという危機的状況が続いておりますが、歴史ある染織技術を次代に繋げていくためには、きものをはじめとする染織品の需要を拡大させることが必要であり、当協会会員にとって急務な課題であることはいまでもありません。

以上を踏まえて、当協会では会員の更なる発展を目的とした『会員のための助成事業』を今年度新たに取り組むことに致しました。これは染織技術を使った商品の開発、発表、販路拡大、啓発等の事業に対して経費の一部を助成金として交付するものであり、会員の負担を軽減することで各社の更なる市場への挑戦によって需要の掘り起こしを期待するものです。

我々京都染織文化協会は、常に市場や社会の動向に気を配りながら、公益事業と会員事業のバランスを図り次代の染織文化に繋げる事業の取り組みにまい進していく所存でございます。

会員の皆様方の更なるご協力を切にお願い申し上げます。

平成26年度事業計画（案）

<基本方針>

古くは平安時代から発展してきた日本の染織文化とその技術は、ライフスタイルの変化に伴う伝統文化の継承困難によりその存続が危ぶまれている。当協会では、染織に関わる所蔵資料やネットワークを通じて、あらゆる方法により一般社会に広く啓発することで染織文化・染織技術への理解と関心を深め、次代に継承していく。

1. 公益事業

「染織文化資源の保全と啓発事業」

■「染織祭」の詳細調査並びに公開（継続事業）

昭和6～15年に染織業の発展を祈念し盛大に執り行われた「染織祭」について北野裕子氏（龍谷大学社会科学研究所客員研究員）により詳しく調査を行い、その成果を当協会ウェブサイト並びにインターネット上で展開するフリー百科事典『Wikipedia』へ情報更新を行い、染織祭並びに染織大国・京都の認知を上げる。

<今年度調査>

- ・昭和26年（織協引き渡し）以降の染織祭衣装の軌跡
- ・染織祭衣装制作の詳細

■染織技術アーカイブ作成に伴う資料調査（継続事業）

当協会で所蔵している染織祭衣装並びに全国染織産地合同制作布地で使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容を当協会ウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏め、順次公開する。

<今年度調査対象資料>

- ・「染織祭衣装」一鎌倉時代35領（北川満哉氏（学芸員）による調査、解説）
- ・「全国染織産地合同制作布地」一約10点（福井健二氏（染織専門家）による調査、解説）

■染織祭衣装の補修・修繕並びにレプリカ制作

（補修・修繕）

当協会が設定している傷みの「5段階評価」に基づき評価4（複数個所に著しい傷み、

汚れがあるが修理可能な状態)の衣装を中心に依頼先と協議の上、着手する。(継続事業)

<対象衣装>

平安時代衣装「裃(あこめ)」 3点

鎌倉時代衣装「桂(うちき)」 2点

〃 「小袖」 3点

<依頼先>

高田装束店京都店(京都市上京区)

松下装束店(京都市中京区)

(レプリカ制作)

当協会が設定している傷みの「5段階評価」に基づき、評価5(広域に著しい傷みがあり、修理不可能な状態)の衣装で、特に貸付要望の多いものを選定し、北川満哉学芸委員並びに依頼先と協議の上、予算の範囲内で着手する。

依頼先については、衣装に使われた技術に基づき、関連組合の協力を得て選定する。

■染織資料貸付並びに画像貸付協力

美術館、出版社等の要請に応じて現物や画像の貸付協力を行う。

<染織祭衣装貸付>

- ・公益性のある美術館、博物館を対象に貸付。
- ・染織祭衣装については返却後メンテナンス作業が伴うため、貸付期間に関係なく、1領につき1万円のメンテナンス料を徴収する。

(貸付予定先)

◎「没後400年 古田織部展」への染織祭衣装貸付

会期並び 【東京展】平成26年12月30日(火)～平成27年1月19日(月)

に会場 松屋銀座8F イベントスクエア(東京都中央区)

【広島展】平成27年3月2日(月)～4月12日(日)

奥田元宋・小由女美術館(広島県三次市)

【近畿展】平成27年10月10日(土)～11月23日(月・祝)

佐川美術館(滋賀県守山市)

主催 【東京展】NHK、NHKプロモーション

【広島展】奥田元宋・小由女美術館、NHK広島放送局、NHK

プラネット中国

	【近畿展】佐川美術館、NHK大津放送局、NHKプラネット近畿
特別協力	公益財団法人上田流和風堂
内 容	平成 27 年に没後 400 年を迎える武将茶人・古田織部の生きた桃山文化を陶芸・漆工・染織を交えながら茶の湯の世界の魅力を伝える。
衣装貸付	安土桃山時代より 6 領貸付予定

< 染織祭衣装画像貸付 >

- ・ 染織文化・染織技術を啓発する当協会の目的に合った内容の出版物や番組等を対象に無償で貸付ける。

■ 染織祭衣装に関する展覧会の開催準備

将来的に染織祭並びに染織祭衣装に関する当協会主催展覧会を開催するため、今年度はその準備作業として、平成 27 年に開催が予定されている神戸ファッション美術館主催の染織祭衣装展（仮称）に協力しながら、展覧構成の検討、衣装画像の撮影等を行う。

「染織技術等継承事業」

■ 染織技術啓発のための小冊子制作と配布（小学生～中学生）

きものとそれに伴う技術を簡単に解説した小冊子を、十三まいり、七五三詣りの場にて参詣者に配布する。

■ 染織技術等に関するセミナーの開催（大学生・専門学生～一般）

当協会所蔵の染織資料を実際に見てもらい、資料に使われた染織技術に関するセミナーを開催する。今年度は『日本の衣服—技術と風俗を語る—』シリーズを継続し、室町時代、安土桃山時代にスポットを当てた内容で開催する予定。広報については、専門学校・大学には大学教授等経由の他、直接アプローチを行い、一般には当協会ウェブサイトや新聞等に広告を掲載して参加を促す。

- ・ 「第 1 回染織文化セミナー」（10 月頃予定）
- ・ 「第 2 回染織文化セミナー」（平成 27 年 3 月頃予定）

■インターネット上での公開講座（一般）

不特定多数の一般の人々に知識を広めていくため、当協会ウェブサイト上でミニ講座の動画配信を行う。

（ミニ講座）「きものの歴史」シリーズ

「染織祭衣装復元～紕帯のできるまで～」シリーズ

（講師）北川満哉氏（学芸員）

（方法）1回の講座は10分迄とし、動画をインターネット動画共有サービス『YouTube』にアップロードして当協会ウェブサイトにはリンクを貼り閲覧する。

「染織技術等継承に関わる助成事業」

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、活発に取り組むを行う団体の、営利目的ではない事業で次に該当する事業に助成を行う。

- ①染織技術の研鑽・向上のための事業
- ②染織技術に関する展示公開等による一般社会への啓発事業
- ③その他染織技術の創造に寄与するために必要な事業

2. 会員事業

「会員向け講座事業」

■セミナーの開催

染織全般に関する知識向上を目的とし、染織の歴史、文化を学ぶものからマーケティング、ビジネス戦略、次代の染織文化に関することなど、会員の要望に応じて幅広い分野で開催する。（年1回予定）

■会員のための啓発事業

当協会会員の加入メリットとして、京都市美術館友の会へ会員登録を行う。

「染織業界発展事業」

■京都ブレス事業（継続事業）

伝統的な染織技術と先端技術を融合させた素材を開発し、現代にあった生活用品を提案するため企画・開発を行い、展示会で発表する。

今年度は、開発した 3 素材（グラスファイバー、特殊撚糸シルク、ポリエステル融着糸）の製品見本をデザイナーの協力のもと制作。今後は国内の有力展示会にて発表し市場の評価を得て、開発品の情報を会員にフィードバックする。

■会員のための助成事業

歴史ある染織技術を継承し、発展することを目的として、当協会会員の次に該当する事業に対し助成を行う。

- ①染織技術を使った商品を開発するための事業
- ②染織技術を使って開発された商品を発表するための事業
- ③染織技術を使って開発された商品の販路を拡大するための事業
- ④染織文化・染織技術を啓発するための事業
- ⑤その他染織技術の創造に寄与するために必要な事業